

〔平成24年度文化振興審議会 全4回要旨〕

1 文化振興審議会の役割について

- ◎ 基本計画に基づく芦屋市の文化行政の振興について評価していくこと（第1回議事録 P.3）

2 評価におけるポイント

- ◎ 企業は最大利益率、行政の場合は公益の最大化（第1回議事録 P.11）
- ◎ 効率性・有効性・公平性がポイント（第1回議事録 P.12）
- ◎ 『芦屋は文化のまち』と言われることが評価に繋がる（第1回議事録 P.13）

3 評価方法について

- ◎ 事業シートを出して、それを通じて対話形式で評価することが望ましい。（第1回議事録 P.43）

4 評価指標の設定について

- ◎ 施策体系②ウ『地域の文化資源の活用』と②エ『良好な景観の形成』を評価の基準に入れるべき（第1回議事録 P.19）
- ◎ 施策体系①ア～オ，②ア～エ，③ア～カそれぞれに対応した評価指標（アウトプット可）が必要（第1回議事録 P.20）
- ◎ 文化施設の文化に関する講座、講演会の開催における延べ参加人数等、人口との対比で比率を算出し、5年後に何%にするか等の目標設定が必要（第1回議事録 P.20～P.21）
- ◎ 『公共性』→地域経済の貢献以外、『公益性』→経済への貢献（第1回議事録 P.29）
- ◎ 地域経済波及力・社会多様化の進歩・ストックの形成・教育的な貢献を自己評価してはどうか（第1回議事録 P.50）

5 施策の有効性について

- ◎ 付加価値をどの程度あげたか、どの程度の感動を与えたか。施策をやった結果、どの程度『芦屋らしさ』が発揮されたか。（第1回議事録 P.22）

6 芦屋らしさについて

- ◎ 芦屋らしさが評価される柱としては、基本目標における項目としては基本計画 P.13 『2 個性豊かで幅広い芦屋文化が創造される活力あるまちづくりの実現』が適当（第1回議事録 P.18）

7 ベンチマークの設定について

- ◎ 小中学生等を対象に、芦屋で育ち、学ぶという次世代育成に関するベンチマーク、アウトカム、アウトプットを検討すること。（第2回議事録 P.42）
- ◎ 都市創造の観点から芦屋のアイデンティティーを外部にどれだけ発信し、外部を巻き込むかというベンチマークも必要。（第2回議事録 P.42）
- ◎ ベンチマークを出すためには、行政が価値観を示す必要あり。
- ◎ 社会的少数者に対する芸術へのアクセス権保障とかも視野に入れることで、本当の公益となる。

8 発信に関するベンチマークの検討材料

- ◎ 資料の貸出をどの程度行ったか。新聞記事やテレビ番組の作成数や外部への影響度合いデータで把握すること（第3回議事録 P.9）
- ◎ ネット検索や新聞記事への掲載回数等データ化すること（第4回議事録 P.16）
- ◎ 『芦屋の空間を谷崎や美術博物館を通して芦屋というまちが分かる』というような指標が必要（第3回議事録 P.10）
- ◎ 美術博物館と谷崎館の連携・外部へのPR（第3回議事録 P.12, P.14）
- ◎ 芦屋のプライオリティを上げる事業効果の測定として、ウェブ上での評価（第4回議事録 P.27）

9 その他の成果指標候補

- ◎ 外部資金の獲得、マスコミへの取材対応数、ボランティア活動数、市民との協働による事業数を指標に入れるべき（第3回議事録 P.13）
- ◎ 館における独自プログラムの開発（第3回議事録 P.18）
- ◎ 新しいことへの挑戦回数（第4回議事録 P.24）
- ◎ ネットワークの形成（施設ネットワークと個人のネットワーク）（第4回議事録 P.27）

10 審議会からの事業方針の提案

- ◎ 美術博物館については『具体』を中心に内外に発信すること（第3回議事録 P.18）
- ◎ 美術博物館・図書館の文化ゾーンをトータルでプロデュースする仕掛けが必要（第3回議事録 P.19）
コーディネート機能の強化（第3回議事録 P.29）
- ◎ アウトリーチ活動とツーリズムの連携、プロモーション活動の回数（第4回議事録 P.26）